



Part 1 (新着資料から)

〈BOOK〉『医薬品開発における結晶多形の制御と評価』

(シーエムシー出版 2011)

市販製剤の原薬の多くは、結晶または粉末状で、約70%以上が複数の結晶多形(同じ化合物で、結晶中の分子配列が異なる状態)をもつことが知られています。抗ウイルス薬であるRitonavir(Abbott社)にも複数の結晶多形が存在しますが、上市後に最安定形が出現し溶出性が規格より低下したため、出荷が中止され、再度製剤化および臨床試験が行われました。このようなことから、開発段階で最適な結晶形を選択し、その物性などを十分に把握しておくことは非常に重要です。

本書は、製剤学の教科書ではあまり深く触られていない、様々な最新の機器を用いた結晶多形評価法について詳しく書

かれています。また、結晶多形の関連技術として最近活発に研究が行われているCocrystalについても、その探索法や製剤学的応用についても記述されています(Cocrystalを用いた製品は日本ではまだ市販されていませんが)。最後の章には医薬品結晶多形の事例も紹介されています。これまで医薬品の結晶多形について、まとめて書かれた本があまり出版されていませんので、このことについて調べたいときには役立つ一冊であると思います。余談ですが、第十六改正日本薬局方第一追補から15品目の医薬品各条の性状の項に「本品は結晶多形が認められる。」という規定が追加されました。

寺岡 麗子 記

〈DVD〉『目で見える臨床検査 第2版』

(医学教育センター 全10巻)

新着図書の医学教育シリーズ“目で見える臨床検査第2版(DVD)”について紹介する。本DVDは10巻(1巻平均40分)からなり、臨床検査として日常行われている検査項目がほぼ網羅された内容で、比較的規模の大きい病院の中央検査部で実施されている検査項目がビデオ化され簡潔にまとめられている。本シリーズの内容を紹介すると、検査項目は臨床検査学的分類にしたがって要領よく各巻にまとめられ、以下、一般検査(尿検査)、血液学検査(血球検査と凝固線溶系検査)、血液生化学検査(血清蛋白、血清酵素、非蛋白窒素、ビリルビン、電解質)、代謝・内分泌検査(糖・脂質代謝、各種ホルモン検査)、臓器機能検査(肝・膵・腎・心機能検査)、微生

物検査(細菌学検査)、免疫血清検査(各種抗体検査)、病理検査(病理組織検査、細胞診検査)、生理機能検査(脳波検査、筋電図検査、呼吸機能検査、循環器機能検査)となっている。ほとんどの検査項目が自動分析化されているため、その内容は臨床検査結果の病態解析に主眼がおかれている。臨床系科目を受講中の学生にとって臨床検査学や臨床検査実習を学ぶ上で大いに参考になる内容である。さらに、“臨床検査値を読む”ことが患者の病態を理解し、最適な治療薬を考えるうえで現場の薬剤師にも求められていることから、既卒者にも大いに役立つ内容といえる。「臨床検査」に関心のある学生は是非とも本DVDを視聴してもらいたい。

太田 光照 記

もくじ

C O N T E N T S

ブックガイド(新着資料から)	先輩からのメッセージ～私の図書館活用術～	6
寺岡麗子・太田光照	図書館ホームページの魅力・図書館歳時記	7
ブックガイド part2(専門分野別) 江本憲昭	薬剤師のためのDI資料(27) 長嶺幸子	8
読書の喜び 畑 公也	2013年度学術雑誌について	8
受入図書から	お知らせ	8


 part 2 (専門分野別)
 BOOK GUIDE

『薬物治療学に興味を持つために』

 教授 江本 憲昭
 (臨床薬学研究室)


私の担当している薬物治療学では、病態を理解し、治療薬の選択を提案できる薬剤師の養成を目指してします。薬物治療学を学習するモチベーションを少しでも高めるために、ここでは医療現場が舞台の作品を私の独断と偏見で選択し紹介します。

まずは、山崎豊子の「白い巨塔」です。大学病院における教授選考にからんだ権力争いと医療裁判を題材とし、人間の本質を描いた長編小説です。山崎豊子は綿密な取材に基づく社会派小説に定評がありますが、本書も医療の世界が詳細に描かれています。ガン性肋膜炎を併発した胃がんに対し手術を行うことの意味、5-FUの使用、その副作用の下痢などが描かれています。数十年前の場面設定ですが、現代でも重要な医療の課題が浮かび上がっており、何度も繰り返し読んでしまう名作です。

舞台をもう少し最近の医療現場に移した小説として、海堂尊の「チーム・バチスタの栄光」があります。現役の医師でもある作者が、リアルな医療現場を描いて話題になりました。ちなみにここに登場するバチスタ法は、拡張型心筋症に対して、拡張した左室を縮小する手術です。拡張型心筋症とはどのような病態か？左室を縮小することで、なぜ病態がよくなるのか？他にどのような治療法の選択があるのか？などを理解した上で、改めてこの小説を読めば新たな興味が湧くかもしれません。

バチスタ術を行う「神の手」を持つ医師というのが、テレビなどで紹介されて話題になっていましたが、元祖「神の手」を持つ天才外科医といえば、やはり手塚治虫の「ブラックジャック」でしょう。宇宙人の手術をするなど現実離れした場面もありますが、たとえば小児ガン的一种「ウィルムス腫瘍」の診断は難しいこと、またピノコが「奇形腫」から作られたこと、など勉強に役立つ知識もありました。

一方、佐藤秀峰の「ブラックジャックによるしく」では、救急医療、医局制度、治療法や生命の選別など日本の医療の矛盾点を取り上げて話題になりました。ただ、テーマが重すぎる傾向があり私個人的にはあまり好きではありません。ちなみに、ここに描かれている研修医の奴隷のような待遇は一

昔前、私たちが研修医だった時代のものです。現在では研修医の待遇は格段に向上し、大学病院では教官からは「研修医様」と揶揄されるくらい大事にされていますから誤解のないように。

漫画の次は映画ですが、「ロレンツォのオイル」を紹介します。治療法のない致命的な難病である副腎白質ジストロフィーに冒された息子のために、医療に関して全くの素人である両親が、各種文献を調べ新しい治療法を見つけるという実話に基づくストーリーです。学生時代にこの映画を観ていたら、大嫌いで仕方なかった脂肪酸代謝経路や神経疾患の勉強にもう少し興味を持って取り組めたのになあと思います。1992年に映画が大ヒットしましたが、その後の話は映画のようにはうまくいきませんでした。奇跡的な治療薬とされた「ロレンツォのオイル」が、実際には症状の改善に有効性を示さず、また翌年の1993年にNew Engl. J of Medicineに効果を否定する論文が発表されたことで、多くの患者およびその家族が失望したという後日談があります。

医療現場のテレビドラマシリーズで人気の高いのは「ER」でしょう。このシリーズの特徴は、医療現場の考証を綿密に行っていることです。従って、毎回登場する疾患の診断や治療の場面はかなりリアリティーに富んでいてよい勉強材料になると思います。一例としてあげると、見学に来た医学部学生が、初日に迷走神経反射を起こしてダウンする場面がありますが、この疾患の典型的な症状を呈しているので、記憶にとどまり易いと思います。失神をきたす循環不全の病態の理解や鑑別診断について勉強するきっかけになるのでは？

最後になりますが、もちろん小説や映画だけでは系統的な知識を獲得することはできません。教科書として指定はしていませんが、もし余裕があるのであれば、「ハリソン内科学」に代表されるいわゆる「成書」で勉強することをお勧めします。マニュアル本では、浅い知識しか得られず、結局は遠回りの学習になってしまいがちです。分厚い本は苦手という人には、「病気がみえるシリーズ」(メディックメディア)が、カラーのイラストも多く、病態から診断・治療まで幅広く記載されているためお勧めです。

読書の喜び

— 例えば「村上春樹」の楽しみ方 —

図書館長 畑 公也
(人文科学研究室 教授)



私の専門はドイツの現代詩ですし、近頃は現代芸術論にも関心を持っていますので、それらの方面の本を読むことが仕事の重要な一部になっているのですが、それとは別に純粋に楽しみだけのためにする読書は、音楽を聴くことと並んで、私の人生に潤いを与えてくれる大切な要素となっています。考えてみると字を読めるようになって以来、もう五十年以上に渡ってずいぶんたくさん読んだことになるのですが、一向に飽きるということがありません。どんなものを読んでいくか、思いつくままに並べてみると、宇野浩二や葛西善三の暗い私小説、異才内田百閒（幻想小説と軽妙な随筆）、木山捷平や小沼丹の戦後ニューウェーブ私小説、川上弘美や小川洋子、外国ではポール・オースター、くだけた物では池波正太郎、藤沢周平の時代小説、海堂尊、フリーマントルなどと挙げるとキリがありません。今回はそれらお好み作家の中から村上春樹を選んで、少し前に話題になった『1Q84』の楽しみ方について話してみたいと思います。

村上春樹はほぼ同世代ということもあって、デビュー以来ずうーっと追いかけて読んでいますが、『1Q84』は現時点でその集大成とも言える大作です。上に挙げた私の読書リストは色々な傾向の作家が混じっていてちょっと脈絡がなさそうに見えますが、この作品の主人公の一人、女性インストラクター青豆さんは、DV 男たちの首筋にアイスピックを突き立てて地獄に送り込む裏の仕事に従事しており、池波正太郎の生んだ仕掛人梅安の直系の弟子です。また作中には百閒の小説の長い引用もあります。つまり村上、池波、百閒がここで繋がったわけで、ファンとしてはそんなところでも密かにほくそ笑みたくなります。

ところで村上春樹は無類のストーリーテラーですから、ストーリーを追うだけで十分堪能できるのですが、ここでは少し変わった楽しみ方として、作中の比喩表現を並べて味わってみたいと思います。比喩の斬新さは村上作品の大きな魅力のひとつになっています。比喩には本来様々な用法、効果があり、その分類から始めるのが筋ですが、紙数の関係からややこしい説明は省きます。そこに含まれるクスグリを十分にお楽しみください。

その1：(ハゲ好みの青豆が自身のハゲを認めようとしない相手に向かって)

本人がなんと思おうと、それは間違いなくハゲなの、と青豆は思った。もし国勢調査にハゲっていう項目があったら、あなたはしっかりそこにしるしを入れるのよ。天国に行くとしたら、あなたはハゲの天国に行く。地獄に行くとしたら、ハゲの地獄に行く。わかった？ (Book 1)

その2：(チェックの甘いボディガードたちを青豆の後見役であるタマルと比べて)

この連中はアマチュアだ、と青豆は思った。かわいいランジェリーや生理用品を目にしたくらいでいちいち顔を赤くしているようではボディガードはつとまらない。もしタマルがこの仕事をしていたら、彼は相手がたとえ白雪姫であっても足の付け根まで徹底してサーチするだろう。倉庫ひとつぶんのブラジャーやキャミソールやショーツをほじくり返しても、ポーチの底まで見届けるはずだ。(Book 2)

その3：(安達クミという看護婦の名前をめぐって)

「アダチ・クミ」と天吾は声に出してみた。「悪くないよ。コンパクトで余計な飾りが無い」「ありがとう(…)そんな風に言われると、なんかホンダ・シビックになったような気がするね」「褒めて言ったんだ」「知ってるよ。燃費もいいし」と彼女は言った。(Book 3)

その4：(新聞の報道写真について)

その秋に大統領に再選されたロナルド・レーガンは中曽根首相を「ヤス」と呼び、中曽根首相は大統領を「ロン」と呼んでいた。もちろん写真映りのせいもあるのだろうが、彼らは建材を安価で粗悪なものにすり替える相談をしている二人の建築業者のように見えた。(Book 3)

どうですか。まだまだ面白いものがありますよ。興味のあるひとは自分で探してみてください。

書名	著(編)者名	出版者
薬剤師のための臨床検査ハンドブック 第2版	前田昌子他	丸善出版
医薬品開発のための統計解析 改訂	芳賀敏郎	サイエンティスト社
創薬科学入門	佐藤健太郎	オーム社
ショートコース有機化学	奥山格	丸善出版
ボルハルト・ショーア現代有機化学問題の解き方 第6版	N. E. Schore	化学同人
有機医薬分子論	周東智	京都廣川書店
薬学分析化学の基礎と応用 第3版	片岡洋行他	廣川書店
はじめて学ぶ物理化学	枝元一之	化学同人
基礎分子物理化学	Keith A. McLauchlan	東京化学同人
人間と放射線 新装版	John W. Gofman	明石書店
病態知識を基礎とした一般用医薬品販売ハンドブック	望月眞弓他	じほう
薬剤師のための感染制御マニュアル 第3版	日本病院薬剤師会	薬事日報社
医薬品-食品相互作用ハンドブック 第2版	Joseph I. Boullata 他	丸善出版
すぐわかる薬剤事典 改訂	吉山友二監修	成美堂出版
よくわかるハイリスク薬の服薬指導 第2版	松本有右他	秀和システム
その論文は著作権侵害?	服部誠	中山書店
ステロイドの選び方・使い方ハンドブック 改訂	山本一彦	羊土社
Ph.D.SAWADA の処方せん鑑査ラボ	澤田康文	南山堂
改正 GCP 治験ハンドブック 第3版	野口隆志	薬事日報社
OTC薬とセルフメディケーション第2版	宮田満男他	金原出版
薬局・薬剤師のための実践!! 法律講座	小林郁夫他	日経 BP 社
こころの治療薬ハンドブック 第7版	山口登他	星和書店
知っているようで知らない医療用語小事典	三浦雅一	ライフサイエンス出版
薬剤師のための救急・集中治療領域標準テキスト	日本臨床救急医学会	へるす出版
微生物孢子	渡部一仁他	サイエンスフォーラム
ステロイド 改訂	宮本謙一	フジメディカル出版
薬学へのいざない	鎌滝哲也	東京化学同人
くすりの安全性を科学する	Michael J. Klepper 他	サイエンティスト社
医療系の情報演習 改訂	池田憲昭他	朝倉書店
イラストレイテッド生化学(リップニコットシリーズ)	Richard A. Harvey 他	丸善出版
ギャノン生理学	William F. Ganong	丸善出版
Human reader 生命科学英語	児玉典子他	京都廣川書店
新薬剤師のための輸液・栄養療法	東京都病院薬剤師会	薬事日報社
ことばもクスリ	山内常男他	医学書院
よりよい医療現場にするための活用術	坂野尚美	高菅出版
よりよき医療コミュニケーションを求めて	前田純子	ライフサイエンス出版
学生のための医療概論 第3版	黒田研二他	医学書院
医薬品情報学 第3版	望月眞弓他	東京大学出版会
図解 PubMed の使い方 第5版	岩下愛他	日本医学図書館協会
薬剤師のトリアージ実践ガイド	佐仲雅樹	丸善出版
標準薬剤学 第3版	渡辺善照他	南江堂
医師・医療クラークのための医療文書の書き方	中村雅彦	永井書店
化学受容の科学	東原和成	化学同人
薬剤師のための症候学 第2版	服部豊	慶応義塾大学出版会
訪問薬剤管理指導はじめの一步と次への一步	長崎薬剤師在宅医療研究会	日経 BP 社
セラミド	セラミド研究会	食品化学新聞社
患者指向で考えるジェネリック医薬品選びのヒント	ジェネリック推進委員会	じほう
糖尿病の治療マニュアル 第6版	東京女子医科大学糖尿病センター	医歯薬出版
薬剤師のための糖尿病療養指導ガイド	日本くすりと糖尿病学会	じほう
レプチンのトランスレーショナルサイエンス	中尾一和	診断と治療社

(化学、医学、薬学分野より一部抜粋)

『「ゼロリスク社会」の罨』

佐藤健太郎 著 光文社新書

車に乗れば交通事故、牡蠣を食べれば食中毒、薬を飲めば副作用と、何事にもリスクはつきものです。しかし、その便利さや魅力に惹かれて我々はリスクを受け入れています。ところが、話がBSEやダイオキシンになると、過剰ともいえる対策に走ってしまいます。なぜ我々はこんな判断をしてしまうのでしょうか。医薬品メーカーの研究職から転身した著者が、この理由をわかりやすく解説し、理性的なリスク判断の必要性を説きます。これから医薬品のリスクと向き合わねばならない皆さんに是非手にとって頂きたい一冊です。

(Y)



Newton別冊『夢の再生医療を実現するiPS細胞 第2版』 水谷仁編集 ニュートンプレス(株)

本書は、iPS細胞(人工多能性幹細胞)でノーベル医学・生理学賞を受賞した山中伸弥教授のインタビュー内容と、iPS細胞の作製法から幹細胞研究の最前線までを特集している。iPS細胞の恩恵により、難病疾患・創薬応用、再生医療の研究がさらに飛躍する一方で、ヒトiPS細胞を用いた人工受精が禁止されるなど倫理的問題が残されている。本書は、我々に科学の進歩と生命の誕生の意義を問いかける本と言えるだろう。

(K)



『氷菓』

米沢穂信著 角川書店

省エネをモットーとする折木奉太郎は姉の勧めで廃部寸前の古典部に入部。好奇心旺盛なお嬢様千反田える、奉太郎と腐れ縁の伊原摩耶花、自称データベースの福部里志の4人で活動することに。奉太郎はえるに依頼され、古典部の文集『氷菓』に秘められた謎を解き明かすこととなります。『氷菓』という名前に込められた思いとは…?

ほろ苦い青春ミステリ。読みやすいので、ぜひ古典部シリーズを読んでみて下さい。

(S.M)



『ラッキーマン』

マイケル・J・フォックス著 ソフトバンクパブリッシング

この本は、マイケル・J・フォックスが俳優としてではなく、一人の人間としてパーキンソン病に立ち向かう姿を描いた自叙伝です。彼は、病気を贈り物として捉え、病気になったからこそ得られたことや気づけたことがあり、それらが今の人生を豊かにしてくれたと語っています。支えてくれる家族の大切さ、そして、マイケル自身の努力や決意を知り感動しました。涙なしでは読めない一冊です。ぜひ読んでみてください。

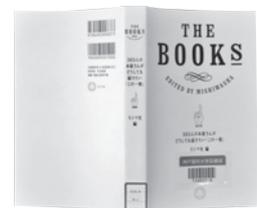
(Y.N)



『THE BOOKS 365人の本屋さんがどうしても届けたい「この一冊」』 ミシマ社編 ミシマ社

最近本を購入されましたか? 「はい」とお答えの方、それは書店へ足を運んでのことでしょうか。それとも便利なオンラインストア派ですか? 「欲しい本だけをインターネットで買うからそれで充分」とおっしゃる方に私は迷わずこの本をオススメします。添えられた手書きPOPからは書店員の熱い!? 思いが感じられ、今まで敬遠していたジャンルへも導いてくれるでしょう。居ながらにして全国各地の書店員一押しに出会える贅沢な一冊です。

(su)



『アハメドくんのいのちのリレー』

鎌田實著 安藤俊彦画 ピーター・バラカン英訳 集英社

イスラエル兵に殺された息子の臓器を、敵国の病気の子どもたちを救うために差し出したパレスチナ人のお父さん。そんな彼の行動や想いが絵本になりました。「臓器提供は、平和を望むわれわれのシグナルだと思ってほしい」と語る彼の「武器に頼らない戦い」は続いています。どうすれば憎しみや悲しみの連鎖を止めることができるのか? 当たり前ではない平和に想いを巡らすきっかけになればと思います。

(N)



先輩からのメッセージ ～私の図書館活用術～

図書館は
「知の宝庫」です。
まずは図書館へ
行ってみよう！

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
大学生生活が充実したものになりますよう、図書館スタッフも応援します。
そこで、「図書館活用法」について、皆さんの先輩方から寄せられたメッセージをご紹介します。
在学生の皆さんもぜひ参考にしてください。

(学年は2012年度現在)



伊藤勇太
博士課程1年

私は主に試験勉強のために図書館を利用していました。薬学部では薬を理解するための基礎知識となる有機化学、物理化学、生化学などから、専門知識である薬理学、薬剤学、薬物治療学など、幅広い知識を必要とします。図書館にはこれら全ての範囲の専門書や参考書がそろっているため、わからないところがあればすぐに調べることができ、非常に勉強がはかどります。特に、**国家試験対策参考書の「青本」**はしっかりと学ぶポイントが押さえてあり、定期試験の勉強にも役立つためお勧めです。

試験前は図書館で集中して勉強し、遊びとのメリハリをつけることができれば、より楽しい大学生活を送ることができると思うので、是非図書館を有効的に活用してください。



長尾崇大
6年

私は入学してから6年間、定期テストの勉強や卒業研究の情報収集、卒業試験・国家試験の勉強等、こころに頑張らなければいけない時に利用させていただきました。大学での勉強は自分次第という部分が強いので、皆が切磋琢磨している図書館の自習スペースが1番集中できました。自宅では勉強ができないという方におススメです。又、大学5年生時に「**プチ情報探索講座**」に参加させていただきました。卒業研究を進めるにあたって文献の調べ方がわからなかった私は、パソコンによる論文の検索方法や医療・薬学関係の文献の探し方等を教えていただき、無事卒業研究を終えることができました。図書館は「本を借りる場所」というだけでなく、「自己研鑽できる場所」なので、今後、より多くの学生の皆さんに利用していただけたら幸いです。



kmh
4年

テスト終わりの図書館は、それまでの、戦いさながらの猛然とした空気はどこへやら、とっても静かで心地が良い空間です。私はこのテスト終わりの図書館が一番好きです。窓からは、ほんわり暖かい光が差し込み、さわやかな風はカーテンをゆらします。光と影のコントラストが静けさを引き立てます。私はそこで、好きな雑誌を読んだり、本を選んだり、学校と違う勉強をしたりして過ごしています。癒されるし、集中できます。とってもすてきな時間ですよ！私の友人は、天気の良い日、誰もいない3階の自習室で勉強しようと座っていたけど、気持ち良すぎて、ふやっとしてる間に時間が過ぎたそうです。癒されすぎには注意です。勉強する、本を借りる、調べ物をする、自分の生息地にする。使い方は∞です。



稲咲
5年

皆さん初めまして、稲咲です。実は私、「**読書マラソン**」を活用して100冊読破を達成しました。「読書マラソン」をご存知ですか？その本好きのあなた！知らないと損ですよ。「読書マラソン」というのは、本を読んで、感想カードを書いて、スタンプを10個集めたら、生協利用券がもらえる☆というおもしろすぎる企画なのです。しかし意外と利用している人は少ないんですよ。詳細は図書館のスタッフさんに聞いてみてください。その時一緒にエントリーしましょう。

読書とは他人の自我にたえず耳を貸さねばならぬこと、という言葉もありますが、同時に、自分を映すよき鏡にもなるものです。さあ、時代も言語も超越している本の世界を冒険しよう！

図書館ホームページの魅力

～使うならこんなとき～

図書館ホームページはさまざまな情報への入り口。知りたいこと、探したいこと、調べたいことがあった時に使えるように工夫されています。図書館からのお知らせや、利用案内など役立つ情報も満載です。

目的に合わせて、ぜひご利用ください。
まずはアクセスを！

<http://www.kobepharma-u.ac.jp/~library/>



図書館歳時記

通年

- ・館内ツアー
- ・プチ情報探索講座
- ・ミニミニ展示
- ・スポーツ展示
- ・読書マラソン
- ・図書館ニュース（mini版）発行
- ・新着図書案内

館内ツアーのお知らせ

図書館で館内ツアーを開催します！！
事前申し込みは必要ありません。
開館時間までに、読書マラソンコーナーにお集まりください。

実施日時★毎週水曜日・金曜日
15:30～
所要時間★約15分

※オリエンテーションに際してはマイクは貸出いたしません。
※館内ツアーは参加できずとも入館のみならず。
※いつも読書マラソンを待っている方は、要らぬ読書について知りたい情報のみを。
図書館

館内ツアー案内

春

- ・新入生ガイダンス
- ・図書館ニュース発行
- ・雑誌カタログ発行
- ・テーマ展示

夏

- ・学術雑誌・データベース購入希望調査
- ・一般雑誌のリサイクル
- ・館内整理（8月）

秋

- ・学術雑誌・データベース契約更新
- ・指定参考書などのリサイクル
- ・学術雑誌製本

冬

- ・館内整理（3月）
- ・指定参考書入れ替え



MINI展示
VISU BOOKS



読書マラソンプレゼント
(POP集)

薬剤師のためのDI資料 27

『カラー図解これならわかる 薬理学 第2版』

ハインツ ルールマン / クラウス モール / ルッツ ハイน์ 著 佐藤 俊明 訳
メディカルサイエンス・インターナショナル 2012

最近の医療は、かつてない速さで進歩している。医療に関わる者は常に新しい薬物、副作用、薬物相互作用に関する知識を得て、医療に活かせるようにしなければならない。

「カラー図解 これなら分かる薬理学」の原著初版は1990年にドイツで出版され、以来、多くの言語に翻訳されている。本書は最新の立証された知識と古くから証明されている知識の両方を簡潔にまとめることを目的に書かれているので医師、薬剤師が知識を更新し、薬物療法との関わりについて全体像を知るのに役立つと思われる。又学生にも役立つ内容である。

病態生理や疾患について学びながら、薬物の薬理作用と臨床応用を簡潔明瞭に学べるように工夫されており、解説と図が見

開き一頁で完結している。また本書には800以上の薬物が収載されていて、新しい作用機序をもつ薬物や抗体医薬等も含まれている。これらの医薬品の中にはまだ日本では承認されていない薬物も多くあり、それらは青文字で示されている。

本書は、第1節は薬理学総論で、薬理学の歴史から薬物動態学や薬物の副作用等について、第2節は薬理学各論、第3節は疾患の治療という構成になっている。第3節の高血圧症の解説では、定義から治療の目的、薬物治療開始前の患者指導や、薬物選択等、図と共に分かりやすく解説されている。

長嶺 幸子 記

2013年度 学術雑誌について

● 新規購読

《洋雑誌》(電子ジャーナルのみ)

- [1] Nature Chemistry
 - [2] Biomaterials (Pay per View 購読)
- 《和雑誌》
- [1] FUNCTIONAL FOOD

● 冊子体購読を中止し、電子媒体のみの購読へ移行

- 《洋雑誌》
- [1] American Journal of Clinical Nutrition
 - [2] Angewandte Chemie International Edition
 - [3] Biochemical and Biophysical Research Communications
 - [4] Bioorganic & Medicinal Chemistry
 - [5] Bioorganic & Medicinal Chemistry Letters
 - [6] Cell
 - [7] Chemical Communications
 - [8] Chemistry - A European Journal
 - [9] European Journal of Organic Chemistry
 - [10] Hypertension
 - [11] Lancet
 - [12] New England Journal of Medicine
 - [13] Nucleic Acids Research

- [14] Organic & Biomolecular Chemistry
 - [15] Pharmazie
 - [16] Planta Medica
 - [17] Tetrahedron
 - [18] Tetrahedron Letters
 - [19] Tetrahedron: Asymmetry
- 《国内欧文誌》

- [1] Heterocycles
- 《シリーズ洋図書》
- [1] Advances in Carbohydrate Chemistry and Biochemistry
 - [2] Advances in Clinical Chemistry
 - [3] Advances in Heterocyclic Chemistry
 - [4] Advances in Pharmacology
 - [5] Advances in Physical Organic Chemistry
 - [6] The Alkaloids: Chemistry and Biology
 - [7] Annual Reports in Medicinal Chemistry
 - [8] Progress in Medicinal Chemistry
 - [9] Vitamins & Hormones
 - [10] Martindale

● 電子ジャーナルコンソーシアム新規参加

- [1] Royal Society of Chemistry

お知らせ

- 『薬剤師のためのDI資料』は、1997年からずっと継続している人気連載企画ですが、今回号で著者の長嶺幸子先生のお手を離れることになりました。長嶺先生には、16年間(27回)の長期に渡ってご寄稿いただきました。本当にありがとうございました。
- LIBRARY GUIDE(冊子)が、より親しみやすい形に生まれかわりました。
- 今年度の後期(10月)には、現図書館システムをリニューアルします。これに伴い、OPAC等の画面構成が新しくなります。また、利用者用のパソコンも新機種に入れ替える予定です。詳細は、今後、打ち合わせて詰めていきます。
- 電子ブック(E-Book)にNewタイトルが加わりました。図書館ホームページの「電子ブックリスト」からご利用ください。
- 今年から以下のデータベースが利用可能になっています。ProQuest Health & Medical Complete、化学書資料館、日経BP記事検索サービス大学版、MICROMEDEX®2.0の「Martindale」です。ご活用ください。